

民間社会事業と「公」
渋沢栄一を中心に

金城学院大学 桐原健真

『中日新聞』 2019/04/11朝刊

新紙幣への刷新が九日、発表された。慣れ親しんでも、なかなか長居してくれない「諭吉さん」とも二〇二四年以降は会う機会が減っていく。そこで気になるのは、なぜ新紙幣の肖像が渋沢栄一、津田梅子、北里柴一郎になったのかだ。改元前の発表という点もあり、政権の「意図」を動線つてしまふ。新紙幣に込めた狙いとは？ 識者に深読みしてもらった。

紙幣刷新「なぜ？」 識者透かし読み



左から一万円、五千元、千円の新紙幣の見本

「現代にも通じる諸課題に尽力した人物」麻生太郎財務相は九日の会見で三人をこう評した。一万円の渋沢栄一は「日本の資本主義の父」と言われる実業家で、みずほ銀行の前身の一つ「第一国立銀行」などを設立した。五千円の津田梅子は津田塾大の創立者で女性教育の先駆者。千円札の北里柴一郎は現在の慶応大医学部を創設し、日本医師会の初代会長を務めた。

「実利実学の分野に偏っている」

明治大の山田明教授（日本近現代史）は、三人にこう感じた。特に注目したのは渋沢だ。「明治以来の経済成長を象徴する人物。再現金を図りたい安倍政権のメッセージを感じる」

渋沢の経済建設には負の側面もあったと山田氏は説く。「経済の発展や近代化

特報

「国家主導経済 再現狙う」 渋沢栄一を起用 「令和」発表直後 「改憲へ向け 新時代演出」



新紙幣について発表する麻生太郎財務相（9日、東京・霞が関の財務省で）

をもちうらした一方で、国家主導の資本主義という形が取られた。具体的には国策会社や軍需産業によって経済が引き込まれた。安倍政権が思い描く経済政策や国家と経済界の関係に通じるようにも見える。

渋沢は戦前の一樞身の教科書にも登場した。商売に励む渋沢を国が一顧奪一と子どもたちを指示し、渋沢は国と足並みをそろえてまたの企業を起した。最近はやりの「おとどちゃん」な感じがないでもない。渋沢が唱えたのが、道徳経済合一説だ。渋沢が初代会頭を務めた東京商工会議所。後の幹部は本紙の三ツムに「他はどうかでも良い」との利益追求を戒めた。「個人利益・国家の

発表の日、紙幣識別機や現金自動預払機（ATM）を扱うメーカーの株に買いが殺到した。景気が入れれば狙いはあるのだから。

ニッセイ基礎研究所の上野剛志（ニアエコノミスト）は「改元と合わせてお祭りムードは高まるかもしれないが、すぐ一般の消費喚起につながるわけはない。それでも一人選が不思議。誰も知る人物じゃない。何らかの意図が、と思ってしまう」と首をひねる。

二千円札は見送り 「政権の沖縄軽視の表れ」



慣れ親しんだ現行の紙幣「文学関係が消えましたね」

名古屋大大学院の日比高准教授（近代文学）は、ぼやく。三人の顔れについて「美学家、文化、科学」といってこれまでの路線の踏襲で、驚きはない。「文化」枠を最近、夏目漱石、樋口一葉が受け持ってきた。文学を研究するだけに気を配っていた。

新紙幣の肖像画に選ばれた3人 選定理由※

渋沢栄一 (第一国立銀行など約500の企業設立に関与)	【産業育成】 日本資本主義の父。日本経済近代化の最大の功労者
津田梅子 (津田塾大を創設)	【女性活躍】 日本初の女子留学生。近代的な女子高等教育に尽力した
北里柴三郎 (破傷風の治療法を発見)	【科学技術】 日本細菌学の父。日本医学の発展に貢献

※選定理由は麻生財務相の説明

（九州・沖縄サミット）が開かれるに合わせたデザインだ。ちょうどこの時期、米軍普天間飛行場の沖縄県名護市辺野古への移設方針が決まった。「サミットや二千円札は、移設に対して沖縄に理解を求める、アメとムチの「アメ」だったと、沖縄出身の松島泰勝・龍谷大教授（鳥しよ経済論）は振り返る。

で辺野古沿岸部の埋め立てに反対が示されている。民意を無視し続けられて、麻生氏は会見で、二千円札見送りの理由を「流通枚数が極めて少ないため」と説明。松島氏は「流通量が少ない責任は政府にあり、理由にならない。紙幣を一新するなら、二千円札も一緒に変えるのが自然だ。その場合、沖縄関係で考えるべき」と話す。

松島氏は新紙幣に採用された三人にも疑問を持つ。「明治以降の近代国家の歩みの礼賛にもとれる。安倍政権が力を入れた明治百五十十年の取り組みにつながらない」と話す。

小田嶋氏がもっと引掛かかるのが発表のタイミング。改元を控えて「いろいろ変わる」という演出をしたいのでは、新元号の発表で安倍政権に対する好感度も上がった。奉祝気分の高まりを受け、5の際だから紙幣の刷新も発表したのだと、世の中が改まるという空気を醸成したのでは、

津田のことは「女子教育に献身し、海外留学も果たした女性でふさわしい」と評価。しかし、「文学を研究する身としては、残念でもある」と心算は複雑。文学者に「適任」と思う人がいるからだ。

「坪内逍遙や志賀直哉なら紙幣刷新なのに見送られ

ら（紙幣になって）おかしくないだろうが、個人的には平塚らいてうが、個人的には運動の先駆者であり、雑誌「青鞥」を創刊し、日本の女性の歴史を歩ませた。彼女が選ばれたら、「やっつけられた」と突破感もある。

日比氏は、津田と栗の藤の花を取り合わせたことに「藤は美しさも遠和感を持つ。一藤は美しい。だが、女性と合わせたのは面白くない。」「おとどちゃん」の発想をチクリと刺した。



守礼門の前で二千円札を手にする琉球衣装の女性。二千円札の刷新は見送られた。2000年、那覇市で

氏も二千円札の不遇な扱いが気になる。「うまく流通せず、政府からすればなかなか

公概念について

公 gōng

▶ Basic Meaning: **public**

▶ **Fair**; equally accessible to all; just.

▶ **An official**; a duke, gentleman

▶ 'His excellency,' 'Your Lordship'

▶ A grandparent.

許慎『說文解字』 100年頃

▶ 公

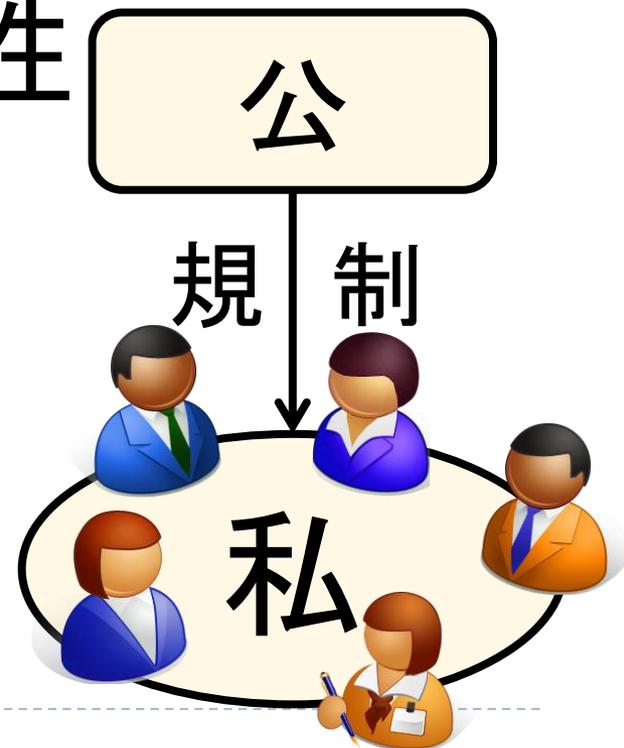
▶ 平分也。从八。从厶。

八猶背也。

▶ 韓非曰「背厶為公」。

漢文脈における「公」

- ▶ 「公」=「私」の**否定体**
- ▶ 「公」=個々の「私」を越えて存在
- ▶ 「公」の**超越性・普遍性**
- ▶ 「天下の**公論**」



人之所以異

於禽獸者

幾希



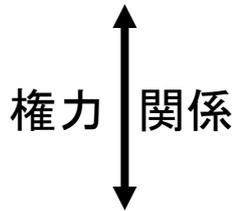
日本における「公」

「おおやけ」とはなにか



- ▶ おおやけ vs. おやけ
- ▶ 大宅 vs. 小宅
- cf. おおきみ vs. きみ

おほやけ

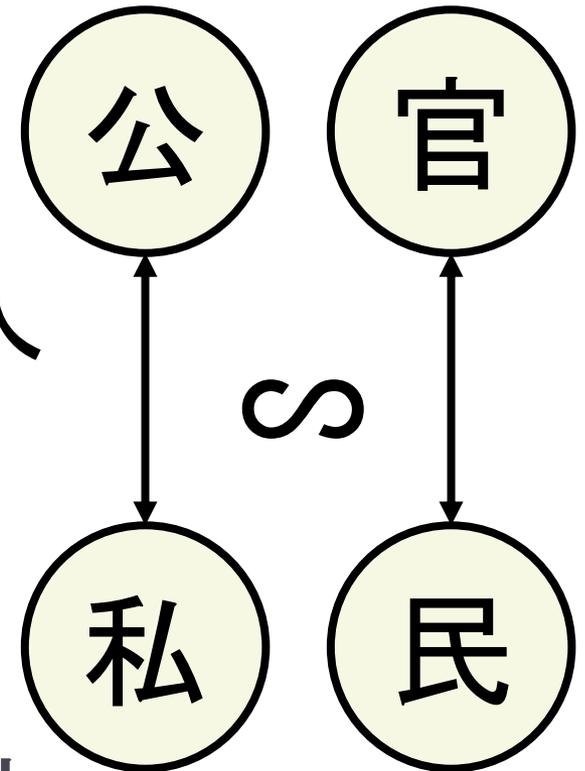


▶ おやけ

公概念の転回

「おほやけ」としての「公」

- ▶ 「公－私」の「官－民」
- ▶ 上下の権力関係の構図
- ▶ 「公」＝「官」＝統治者個人
 - ▶ 「公」：天皇・将軍
- ▶ 「公」の有する正当性
 - ▶ 統治者によって独占
 - ▶ →幕府・将軍＝「公儀」「公方」



幕末志士の「公論」...②

- ▶ 幕府が独占する「公」への挑戦
 - ▶ 幕府統治の論理
 - 「公論」ではなく「私論」
 - ▶ 自分たちこそが「公論」
 - みずからの正当性を主張

「打破官尊民卑」

青淵先生頌徳碑より

「専制政治の弊と多数政治」

▶ 渋沢栄一『実験論語処世談』(66)

▶ 三島中洲の哲人政治論を批判

▶ 「今日の多数政治、即ち立憲政治の行はれたのは、**専制政治の弊害を牽制**せんとして生れたもの」→多数による統治

「真正なる道」へ...⑨

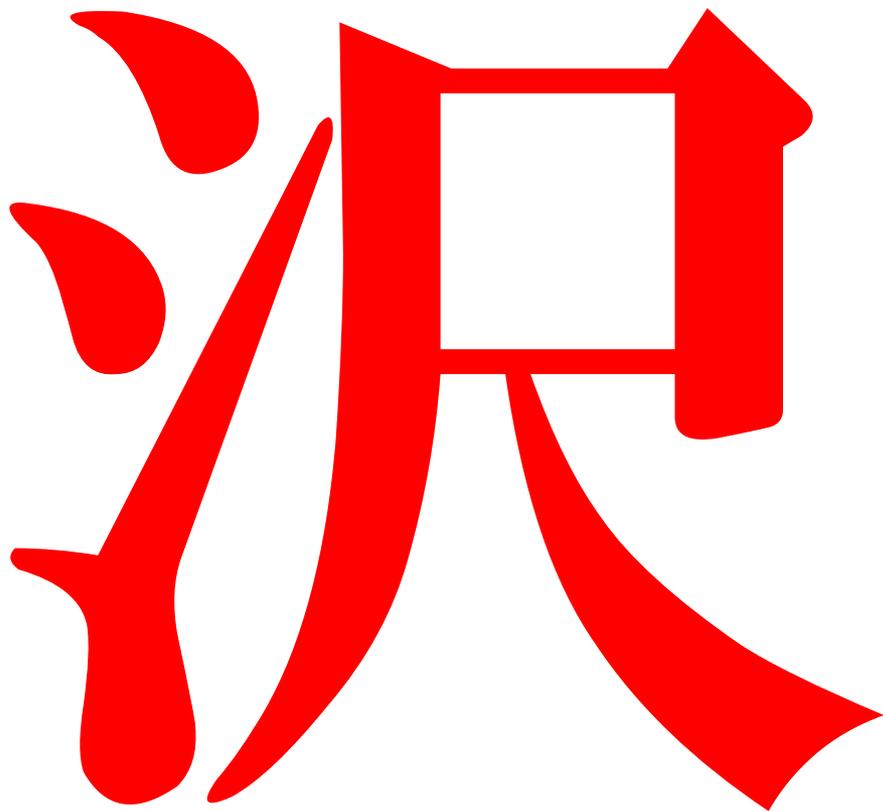
理想的
人倫

公

職責の
分有

官

民



「二沢」の選択

澁沢栄一と福沢諭吉

學者

職分論

— 1874 —

学者は学者にて

私に

事を行ふ可し

一国独立す

官界

財界

日本
独立

Etc.

学界

二沢の思想的背景

▶ 福沢 1834-1901

- ▶ 下級武士出身：反門閥
- ▶ 政治から超然→教育へ

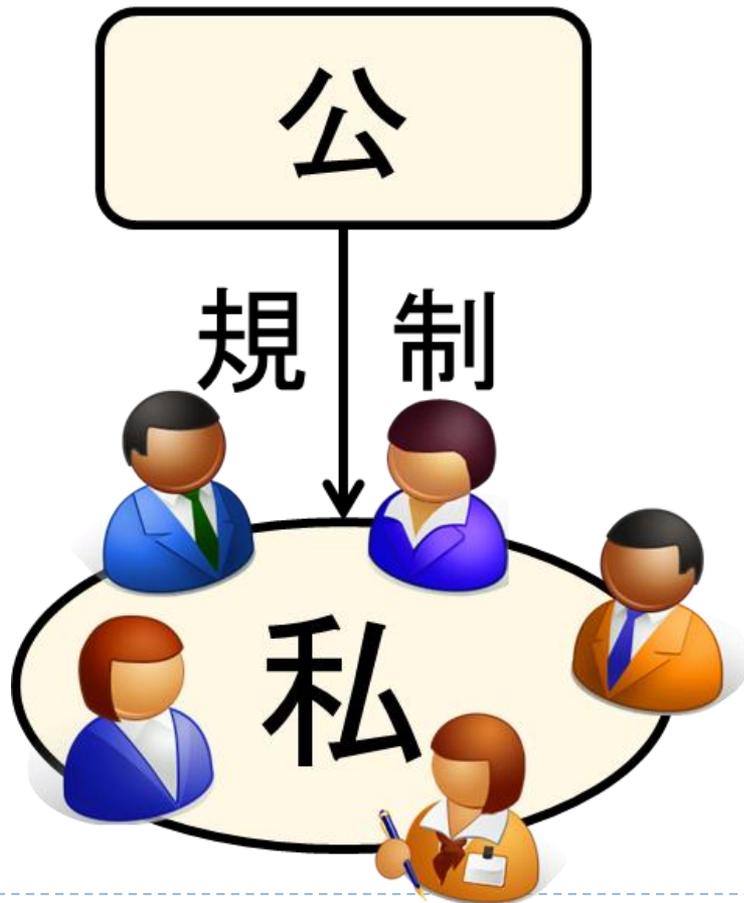
▶ 渋沢 1840-1931

- ▶ 豪農・志士出身：反権柄
- ▶ 公（≡経済）の奪取→実業へ

和漢の「公」

漢語の公：私の**規制**

和語の公：**お上**意識



▶ 支配と被支配

